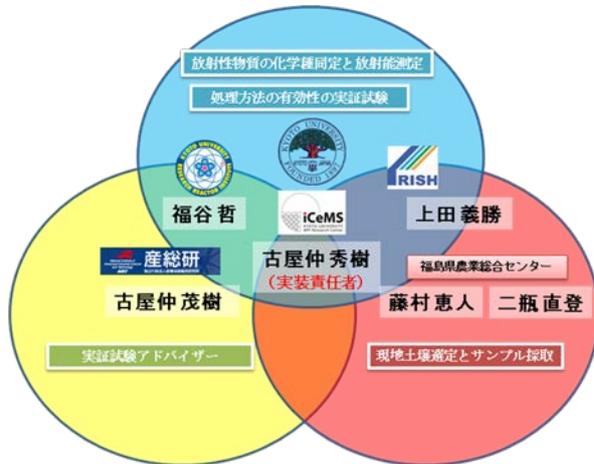


実装活動の組織体制

H23_様式 7

1. 実装組織の組織図



本実装組織には責任者である古屋仲 秀樹（京都大学物質—細胞統合システム拠点）の他に、上田 義勝（京大大学生存圏研究所）、福谷 哲（京都大学大原子炉実験所）、藤村 恵人、二瓶 直登（福島県農業総合センター）及び古屋仲 茂樹（産業技術総合研究所）らの構成員で組織される。組織の役割分担に関する概略図を左に示した。実装内容としては大きく以下のように分類される。

- ・ 現地情報の収集
- ・ 土壌選定とサンプル採取
- ・ 放射性物質の化学種同定と放射能測定
- ・ 処理方法の有効性の実証実験

国や企業による本格的な土壌浄化作業のスムーズな開始につなげるために、実装活動の結果を逐次報告（支援期間中含む）し、本実装活動を通じて得られた土壌浄化方法のプロセスを最大限・最速に活かすために随時浄化作業を実施する現場に赴く。本組織ではそれぞれの作業を連携しつつ迅速に行うために、各構成員がある程度重複した内容を担当する。

2. 実装組織の位置づけ

実装内容と組織の具体的な位置づけ、担当は下記の通りである。

・ 現地情報の収集

福島原発周辺地域に関する大気・水・土壌に関する正確な現状を把握する。

・ 現地土壌選定とサンプル採取

放射性物質の実際の飛散状況と現地での農作物や居住区域等の影響を考慮しつつ、最適な土壌サンプルを選定する。（担当者：上田義勝、藤村 恵人、二瓶 直登、）

・ 放射性物質の化学種同定と放射能測定

サンプルの土壌に含まれる放射性物質を調査し、その放射線強度や放射性物質の化学的同定を行う。また、その結果を基に現地土壌選定の採取方法について都度考慮していく。（担当者：古屋仲秀樹、古屋仲茂樹、福谷哲）

・ 処理方法の有効性の実証実験

持ち帰ったサンプルを実証実験に合わせた形で処理を行う。また、処理結果を基に今後の大量処理可能な改良提案についても検証する。（担当者：古屋仲秀樹、上田義勝、古屋仲茂樹）

3. 実装責任者の略歴

- 昭和 61 年 3 月 国立豊橋技術科学大学エネルギー工学科卒業
昭和 63 年 3 月 国立豊橋技術科学大学大学院エネルギー工学研究科修了
昭和 63 年 4 月 株式会社本田技術研究所入社 栃木研究所勤務
平成 3 年 10 月 日本文理大学工学部土木工学科都市衛生工学研究室助手
平成 5 年 4 月 同講師、平成 10 年 3 月 国立秋田大学鉱山学部大学院後期博士課程地球工学専攻修了 工学博士
平成 11 年 4 月 同助教授
平成 15 年 4 月 仏オルレアン国立科学研究所（CNRS ORLEANS）材料科学研究部門（CRMD）仏政府給費客員研究員
平成 17 年 4 月 京大大学生存圏研究所 研究機関講師
平成 19 年 9 月 京都大学物質—細胞統合システム拠点准教授